

—下関市—

下関市のウォーターフロント開発（あるかぼ〜と開発） ～星野リゾートが、関門海峡にやってくる！～

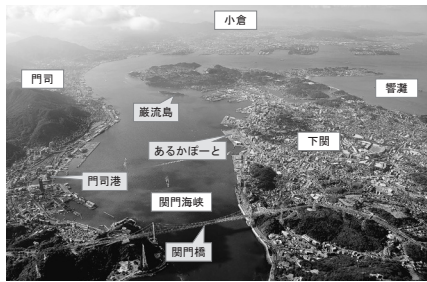
1. はじめに

下関市と言えば河豚（下関では「ふぐ」の事を「ふく」と呼ぶ）で有名な街であるが、これからは星野リゾートで有名な街になる！

下関市は、本州の最西端に位置し、東は周防灘（瀬戸内海）、西は響灘（日本海）、南は関門海峡と三方を海に開かれた『海峡と歴史の街』である。

源平の壇之浦の合戦をはじめ、巖流島での宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘、明治維新の契機となった長府功山寺での高杉晋作の決起、史蹟春帆楼での日清講和条約（下関条約）の締結など、この関門海峡が日本の歴史を大きく動かす舞台ともなった。

そして令和の今、この関門海峡に面した「あるかぼ〜と」におけるウォーターフロント開発は、本市の賑わい創出に必要な最優先施策の一つとなっている。



関門海峡における「あるかぼ〜と」の位置

2. 「あるかぼ〜と」について

さて、「あるかぼ〜と」は、「海響館（市立水族館）」などの賑わい施設が集積する地区で、住所としても登録されている。

この名称は一般公募により名付けられたもので、古代ギリシャ語に由来し、理想郷を意味するアルカディア（arcadia）とポート（port）を重ねた造語である。

あるかぼ〜とでは、「海峡まるごとテーマパーク」を基本コンセプトに、1989年から2000年にかけて、約13.5haの用地造成（古い倉庫群の撤去・クリアランス事業や埋立事業など）を行うとともに、ボードウォークや緑地などが進められた。

2001年には、「海響館」や隣接する唐戸地区に「唐



ホテル計画地の位置

戸市場」が、また翌2002年には、関門の海の幸を中心としたレストランや土産物屋が立ち並ぶ「カモンワーフ」がオープンした。

3. 紆余曲折

造成が完了し、あるかぼ〜との東側エリアは次々と開発が進んでいったが、今回ホテル誘致を行うこととなった土地は、過去2度の計画頓挫という苦い過去を持っている。

1度目は、2007年。大型ショッピングセンターとホテルなどを計画したが、地元事業者や周辺住民を含めた市民のコンセンサスが得られなかったことが原因で計画中止となった。

2度目は、2008年。あの「リーマン・ショック」の影響を受け、公募選定によって来るはずの事業者が辞退したため中止となった。

執筆者の私が所属している港湾局内に、平成29年10月に「下関港ウォーターフロント開発推進室」が設置され、3度目の正直となる民間ホテル事業者公募を、平成30年11月に実施することが出来た（スピーディ且つ慎重に！という命題付き）。

2つのグループから応募を頂いたときには、応募が0でなくて良かった！という安堵が先ずあったが、公平・公正な審査に心がけ、(株)星野リゾートを優先交渉権者として決定するに至った。

今回の選定審査では、星野案において景観に対する配慮の得点が特に大きかったが、更により良き物を作るべく、市と星野リゾートとの間で現在協議を重ねている。令和2年3月に事業契約を締結し、令和5年のオープンに向けて邁進していく。

4. おわりに

隣接する長門市では星野リゾート「界 長門」が3月12日にオープンしたが、下関の星野リゾートもすごいぞと思わせることが出来るよう頑張っていきたい。「乞うご期待！！」



星野リゾート星野佳路代表と
前田下関市長
2019年6月13日
共同記者会見より

（下関市 港湾局 経営課

下関港ウォーターフロント開発推進室 上部 博範）